

市営住宅入居者の皆様へ

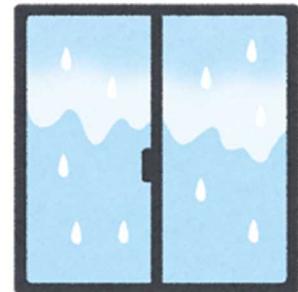
大東市街づくり部都市整備室建築課

# 結露にご注意を！

冬季や湿気の多い時期になると、壁や窓ガラスに水滴が発生する現象「結露」が起きます。

結露が起きると、部屋の壁や天井、家具、押入、浴室が湿り、ひどいときには床が水浸しになってしまいます。

さらに放っておくとカビが発生します。



◎結露防止には次のような対策があります。

⇒詳しくは次ページをご参照ください



1. 窓を開け換気する。  
特に、炊事・入浴時は、  
換気扇を回す。



2. 壁などに結露を見つけたら、すぐにふき取る。



3. 外壁側に家具を置くときは、10cm  
～15cm離す。

(結露による壁などの汚れ・破損などの修繕は、入居者の負担で直していただく場合もありますのでご注意ください。)

住まいの中から結露を追放し、快適な生活をお過ごしください。

場所	結露発生の原因	防止対策	季節
台所	ガスが燃焼すると水蒸気が出る。また、湯を使うだけでも水蒸気が出る。発生源近くですぐ排出する。	①水蒸気が他の居室に広がらないように、調理時、炊飯時、皿洗い時は換気扇を回す。また、使用後もしばらく回す。	通年
浴室	短時間であるが最も大量の水蒸気の発生源。浴室の壁・床・天井は防湿構造になっていて、意識的に排出しないといつまでもこもる。	①入浴後換気扇を回すか、窓を開ける。防犯上危険な時は夜間に換気扇を回し、戸間窓を開放する。換気扇のみなら翌日まで回す。 ②浴槽水は使用後すぐに排水する。 ③浴室の扉は開けっ放しにしない。	通年
寝室	人の水蒸気発生量も大きく、夜間温度の低下により窓ガラスが結露することがある。	①就寝前の5分程度の窓開けによる換気で結露が軽減される。 ②ベッドやタンスは壁から10~15cm程度離す。	冬期
暖房器具を使用する部屋	石油ストーブなど開放型のストーブは、発熱と同時に水蒸気を放出する。	①やかんをのせたり、加湿器を併用しない。 ②こまめに換気を行い、新鮮外気の取り入れとともに湿度を下げる。 ③エアコン、床暖房、パネルヒーターなど水蒸気を発生しない暖房器具等が有効である。	冬期
暖房室と隣り合った非暖房室	ストーブや加湿器などから発生した水蒸気は、非暖房室にも拡散し、結露の原因になる。	①なるべく広く暖房し、温度差をなくす。 ②非暖房室への水蒸気の流入を抑える。また、水蒸気を発生しない暖房機の使用が有効である。	冬期
梅雨時の居室	戸外も室内の温湿度が高く、ちょっとした水蒸気の発生で結露しやすい。	①クーラーの使用による除湿が有効である。 ②温度が低く湿度が高い時は除湿器が有効である。	梅雨 冬期
押入・収納庫	北側や日光のあたらない家屋の中央部に設置されることが多く、温度が低く、通風も悪く、高湿度になりやすい。（特に外壁に面した北側の押入）	①収納部品を外壁より10~15cm離し、一杯収納しない。また、床にスノコを敷き、通風を良くする。 ②夜間、ふすまを開けておくのも有効である。押入のある部屋での暖房は水蒸気の発生の少ない電気式・密閉式が適している。	冬期
家具の裏	空気がよどみ、温度が低く、裏面の壁は結露しやすい。北側や東・西側の外壁に面した壁に沿って家具を置くときは注意が必要である。	①裏側と壁の間を10~15cmぐらい開け、スノコを敷いて床から2cm以上開けると空気が通りやすくなる。	通年 冬期
ガラス窓	室内側で表面温度が一番低く、冬期の結露防止は通常難しい。	①ガラス内側面の温度低下を防ぐ。 ②結露した時は、こまめにふき取るのが最適である。暖房器具を窓側に置く。また、窓が曇りだしたら換気を行う。	冬期 梅雨
カーテンや内側の紙障子	熱は伝えにくいが水蒸気は通りやすく、低温の窓ガラスの間で結露が激しくなりやすい。	①カーテンなどはこまめに開閉し、空気のよどみをなくす。 ②濡れた窓はこまめにふき取る。	冬期 雨天
室内での洗濯物干し	室内に濡れたものを干すと、家の中の湿度が高くなり結露の原因となる。	①室内に干さないのが原則だが、どうしても干す時は浴室の窓を開け、入口の扉を閉めて浴室に干す。 ②閉め切った浴室に除湿器又は除湿器付き乾燥機を置いて干す。	冬期 雨天
共働きで留守がちの部屋	朝食や夜の食事で発生した水蒸気を閉じこめたまま、外出・就寝することが多く、結露しやすい。	①戸一日中換気扇を回しておくか、帰宅後各室の窓を10分ぐらい開け、外気を入れる。 ②外出時、除湿器をつけておく。	通年